

映像802会報

2017年
2月号

2017年
2月12日

東日本大震災ボランティア 清水英毅

二千十一年五月、二泊三日、日本防災士主催の第二陣募集で宮城県亘理郡山元町周辺の被災地支援ボランティア活動に参加しました。参加人員四十二名首都圏、山形等から駆け付けました。被災地の活動状況は、住宅、いちご畑のビニールハウス瓦礫、家財の撤去、床上、床下の泥だし、家財搬送等の活動をしました。被害の実態は、テレビ等で報道されている以上、上に悲惨な状態で目に余るものがあり、涙が出る思いでした。自然災害の恐ろしさを痛感しました。未曾有の災害で瓦礫の山が至る所にあり、手付かずの状態でした。今後の復旧復興支援は、現段階で瓦礫の山が所々に放置されたままであったのを見ると、

こんなこと、あんなこと

ます。



被災地ボランティア

相当の長期間と各方面からの支援等が必要であると思いません。原発の収束が出来ない限り、被災者の事を思いますと、一日も早い復旧復興する事を期待しております。今回の活動体験を今後の防災士などのボランティア活動に活かしたいと思

二月例会報告

★開催日時

二月二二日

十三時～十七時 例会

★場所 北野市民センター

会議室

★上映作品 十三作品

★参加人数

例会二十五名

☆神山会員の「BGM」ってなんだろう？の作品について沢山の質問がだされました。会員全員が映像にあった「BGM」選びには悩みがあるようです。神山会員には後日講習していただきたいと思



司会の初谷会員



懇親会



例会の様子



例会の様子・・・

トピックス

☆休会中の高橋元次郎さんが復帰されました ★

小林会員作品

「田んぼアート」が

ビデオサロン誌で大賞

受賞（詳細後述）

★やさしい「ビデオづくり講座」が

三日間開催されます

二月二六日（日）

三月五日（日）

三月十九日（日）

十月～一七時

今後の例会予定

★三月十二日（日）

北野市民センター7F 会議室1

十時～十二時 勉強会

※ タイムラプス

※ タイムラプス 山浦会員

※ タイトルアラカルト 池田会員

十三時～十七時 例会

★四月九日（日）

北野市民センター7F

カルチャーセンター

十三時～十七時 例会

2月例会「上映一覧」

映像802

2017年2月12日

No	お名前・作品名(副題など) 作品時間・機材など	作品概要 (100字以内)	意見を聞きたい箇所 (50字以内)
		苦心した箇所 (50字以内)	こだわり、見所 (50字以内)
1	神山大亮 「BGM ってなんだろう？」 9分28秒 Pentax K-3 Sony HVR-Z5J	日頃例会でも BGM についての感想ご意見をさせていただいているので、今回はそれをテーマにハウツー動画風のものを作ってみました。	BGM と映像の関係が感じられたか？ BGM の存在に興味を持てたか？ もっと見てみたいパターンやこういう場合はどうするかという点。
		思いついて作ってみたものの、必要な動画シーンの制約が強く、BGM づくりにともその制約が響いた点。	心理への影響が結果として映像を見る目に影響していき、相互的に印象というものが構築されていくことを見て頂ければ。
2	町田豊年「富良野岳・積丹半島」 ふらのだけ しやこたんほんとう やま はな みず きょうえん ～山・花・水の競演～ 7分10秒 Sony cx180	昨年、水被害のあった北海道の富良野市ですが天候さえよければ素晴らしい所です。まさにその前にある山＝自然です。そして、積丹半島の積丹ブルーを撮ってみました。	構成の作り方、そして作品の中に面白さ・落ち等を入れたいのですが・・・
		三脚が使えないので手ぶれしないように頑張らって(?) みました。	
3	清水英毅 「第2回ミニ撮影会 コスモス」 3分41秒 Panasonic HC-X920M	昨年10月14日第2回ミニ撮影会を国営昭和記念公園で開催されました。テーマは、「コスモス」でありました。曇り空で合ったので影・光をどうふう撮ったら良い挑戦しました。	花の色を鮮明にするには、マニュアルフォーカスでリングを回してピントを調整したりするのが難しい...
		「コスモス」の一部は、7分咲で種別によって3分咲であった。曇り空で光が少なかったため花卉などを撮るのに苦心した。	
4	佐野元子 「西新宿のビルと イルミネーション」 2分59秒 CANON IXY 32S	今年入会したばかりなので初めて作品を出品します。ビデオカメラではなくデジカメで撮ったフォトアルバムです。入会したからには何か作品を作りたいと思い、前に撮っていた写真を並べて作りました。高橋さんにはCDからDVDに書き出し方など詳しく教えていただいて完成した作品です。	作品全体です。 何でも結構ですので気づかれたことをお聞かせください。
		一番苦労した箇所はBGMの曲選びと、曲と画像を同時に終了させること。何回もやりなおしてようやく完成。	どの画像をアニメーションにするか、どのように表現し、次の画像とどのように繋げるかを定めることでした。
5	浮貝カツ子 「天空の聖地 峨眉山」 てんくう せいち がびざん 6分36秒 SONY HC 1	中国四川省にある峨眉山の旅行記です。	
		動いて使い物にならないと諦めていましたがMeralliでどうにか思い出が出来ました。	
6	真田玲子 「天空の楽園」 てんくう らくえん 4分30秒 Panasonic DMC-GH3	星空撮影をしてみました。	

7	米山国雄 「日光流鏑馬」 6分56秒 JVC GZ=E150N	昨秋、初めて兄弟三人で日光に小旅行した際に、武者行列や流鏑馬（やぶさめ）の披露があり、その時の様子の一部です。 人出が多く、カメラを固定できずぶれてしまった。	
8	高橋 陽 「高尾 どん助」 6分40秒 Sony GW77	2017年家族の新年会を高尾のどん助でやった時の様子です。	
9	小林節子 「鶯替え神事」 2分50秒 ソニーPJ670	いろいろ起きたいやな事全部うそに替えられたらどんなにいいかと思いませんか？ 素材が少なくて困りました。余りの混雑で手持ちです。木彫りの鶯どりを撮影するのに3時間ならびました。	
10	小野 進 「青い光の川」 4分20秒 Panasonic DMC-GH3	華やかな相模湖イルミリオンを「真逆」のイメージで捉えたイメージビデオです。なお、「気は確か」であることだけは、予め申しあげておきます。 全部苦心だらけ。その割には自分のイメージとはほど遠い。何事も被写体は丁寧に撮ることが大切です。	
11	辻 升人 「金婚」 7分00秒 SONY SR12	50年経ってしまいました。ここ数年はひろ子ちゃんにすっかりお世話になっています。50本のバラは感謝の気持ちと今後もよろしくと言うメッセージです。 ずっと撮り続けたものを1本にするのは難しい	こういった類の物は自宅で見なさいと言わずに、嫌な顔をして見てください。
12	夏目満子 「行く年くる年」 ～子等の影～ 5分20秒 SONY AVCHD	稲村ヶ崎の大晦日の日没の景と、元日の朝の風景を並べた作品です。 適当な題名がなく困りました。	太陽や月がなかなかきれいに撮れません。 落日の光に染まる波がとても美しいと思いましたが・・・
13	加藤利雄 「田名八幡宮 的祭」 6分45秒 Canon iVIS HFG20	的祭の起源は鎌倉時代と言われています。この神事は子どもが放つ弓矢によって、その年の豊作凶作を占う行事です。 小さな会場では自分の思うような撮影は難しい。仕方なく不足のカットを今年撮影し作品にまとめました。	的祭がどんな神事なのか伝わるようにすること。

小林節子会員またまた快挙！

小林節子会員の作品「田んぼアート」がビデオサロン誌2月号の「魁ビデオ道場」で大賞（賞金2万円）を受賞しました。小林さんは2016年2月号での「流れ橋」に続き、2回目の大賞受賞となりました。おめでとうございます。



半年かけて
イベントの全体像を記録
小気味よくまとめた
編集も見事！

地域ドキュメント

田んぼアート

5分49秒

小林節子さん(東京都八王子市)

撮影●JVC Everio

編集●グラスバレー EDIUS Neo 3

●「最近よく聞きはするけど詳しく知らない」そんな田んぼアートをその歴史と細かい制作過程をじっくりと取材した力作。世界一の面積の田んぼアートを目指す埼玉県行田市の活動を中心に、デザインの段階から追う。



道場長
講評

◆立体的に見えるデザインも登場している流行の田んぼアートを知った作者が、その魅力を細かい部分から徹底的に描くことで自分も理解していくという作品構成。それが見る側にも伝わっていき、作者と視聴者が両者とも気持ち共有できる一作になっています。撮影だけでなく田んぼアートの発祥やデザイン画等も盛り込むことで疑問を抱かずに見ていけることもこの作品の特長。じっくり撮れ、何度でも撮り足せるのはアマチュアビデオの特権でもあります。思い立ったネタをどのように作者の中で膨らませていくか、そういうものを覗けたような気がします。

作者に
聞きました

ネタを決めたら
自分が納得するまで
じっくり取り組む

大賞の小林さんですが、この題材で撮るきっかけとなったのは、普段から作品を見てくれる友人からの紹介だそうです。話を聞いたのはちょうど爽りの頃で、カメラを持って完成した田んぼアート撮影に出掛けた作者。普通はこれだけで作品を作りそうですが、小林さんの場合はここからが作品作りのスタート。翌年を待って、そのデザイン時期から田植え風景、秋のアート完成、稲刈り、そして残ったわらを使った立体アートまでしっかり撮影。さらには情報収集のため行田市観光協会等の取材もいとわなかったそうです。編集に入ってから撮り忘れに気付くとまた撮影に。とにかく決めた題材を自分が納得するまで掘り下げる姿勢が、小林さんのスタイルなんだと感じました。この行動力とこだわりは、見習うべきものがあります。

